

小児科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

| | |
|-------------------------------|--|
| 研究課題名 | トスフロキサシンによる急性腎障害の発生動向 |
| 研究機関名 | 愛知医科大学病院 |
| 研究機関の長 | 病院長 羽生田 正行 |
| 担当科等 | 小児科 |
| 研究責任者 | 小児科（職名）教授 （氏名）奥村彰久 |
| 試料・情報を利用する 学外の研究機関名・研究責任者名 | 非該当 |
| 研究の意義・目的 | ニューキノロン剤であるトスフロキサシンは 2009 年から小児に使用することができるようになりました。しかしこの抗菌薬の副作用は充分解明されていません。この研究では、トスフロキサシンによる急性腎障害の発生頻度ならびに発生に関連する要因、急性腎障害の予後について解明することを目的とします。 |
| 対象となる患者さん | 2013 年 5 月から 2018 年 4 月までに当院小児科を受診された方で、前医または当院でトスフロキサシンを内服している、かつ、血液検査を実施された患者さん |
| 研究の方法 | 診療録から家族歴・原因・症状・診断・治療内容・経過などの情報を得て、集計・解析します。この研究は愛知医科大学医学部倫理委員会の審査を経て、病院長の承認を受けており、愛知医科大学病院小児科が統括しています。より詳しく知りたい場合は、研究計画書や研究の方法に関する資料を入手又は閲覧できます。その場合は、下記のお問い合わせ先にお問い合わせください。 |
| 研究期間 | 倫理審査承認日 ～ 2021 年 3 月 31 日 |
| 研究に用いる試料・情報 | 情報：病歴、身体所見、年齢、性別、生年月日、人種、血液・尿・髄液等の生化学検査情報、X線・CT・MRI等の画像情報、治療内容などの診療情報 |
| 外部への試料・情報の提供 | なし |
| 試料・情報の利用又は提供を希望しない場合 | 本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、下記問い合わせ先まで申し出てください。 |
| 問い合わせ先 | 愛知医科大学 医学部小児科学講座 |

担当者：(職名) 専修医 (氏名) 沼本真吾

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1

電話 0561-62-3311 (内線 22149)